

## 岡山大学の理念，目的等 / 薬学部の教育理念・目標

### 1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的，持続的に進展させるためには，常に新たな知識基盤を構築していかねばなりません。岡山大学は，公的な知の府として，高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

### 2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は，「自然と人間の共生」に関わる，環境，エネルギー，食糧，経済，保健，安全，教育等々の困難な諸課題に対し，既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ，人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため，我が国有数の総合大学の特色を活かし，既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして，高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

### 3 岡山大学の教育理念・目標

岡山大学は，大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として，学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに，学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて，個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し，国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

#### 教育理念

- ・ 自然と人間の共生を希求する。
- ・ 多様な文化・価値観を尊重する。
- ・ 地域と世界の発展に寄与する。

#### 教育目標

- ・ 探求・創造する知性の育成 —自ら問いかけ学ぶ教育—
- ・ 豊かな教養と高度専門性の追求 —知の体系に根ざし専門を伸ばす教育—
- ・ 異文化理解に基づいた国際性の獲得 —様々な文化・民族に親和する教育—
- ・ 社会的責任を担いうる個の確立 —自己と他者を認め合う教育—

### 4 薬学部の教育理念・目標

薬学部は，①薬学に関する基礎及び応用の科学並びに技術を修得させること，②薬学に関連する社会的使命を正しく遂行し得る人材を養成すること，③薬学に関する研究を遂行して社会の発展に寄与すること，を目的としています。

## 【 参 考 】

### 岡山大学管理学則

(大学の目的)

第10条 広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して，知的，道徳的及び応用能力を展開させ，日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに，学術の深奥を究めて，世界文化の進展に寄与することを目的とする。

## 沿 革

- 明治 23年2月 第3高等中学校医学部（現岡山大学医学部）に薬学科が附設された。  
27年9月 勅令第17号により廃止された。
- 昭和 44年4月 医学部に薬学科が設置された。  
45年4月 薬化学、生理化学及び生薬学講座が開講された。  
46年2月 医学部薬学科の第1期建築工事（3,989 m<sup>2</sup>）が完成した。  
4月 薬物学及び衛生化学講座が開講された。  
47年4月 薬品化学及び薬剤学講座が開講され、薬学科における専門講座（7講座）が完了した。  
48年4月 大学院薬学研究科薬学専攻が設置され、小山鷹二教授が研究科長に就任した。  
50年4月 製薬化学科が設置された。  
51年4月 薬品分析学及び薬品物理化学講座が開講された。  
5月 国立学校設置法の一部改正により薬学部（薬学科、製薬化学科）が設置され、小山鷹二教授が学部長に就任した。  
52年3月 製薬化学科棟及び講義室の第2期建築工事（3,342 m<sup>2</sup>）が完成し、建物総面積7,331 m<sup>2</sup>となる。  
4月 微生物薬品化学及び生物薬品製造学講座が開講された。  
53年4月 合成薬品製造学及び環境衛生化学講座が開講され、製薬化学科における専門講座（6講座）が完了した。  
附属薬用植物園が設置された。  
学部長小山鷹二教授の定年退官により、田中善正教授が学部長に就任した。
- 54年4月 大学院薬学研究科に製薬化学専攻が設置された。  
55年3月 附属薬用植物園に管理棟（200 m<sup>2</sup>）が完成した。  
56年3月 附属薬用植物園に温室（128 m<sup>2</sup>）が完成した。  
10月 学部長田中善正教授の学生部長就任により、田坂賢二教授が学部長に就任した。
- 61年4月 学部長田坂賢二教授の任期満了により、大和正利教授が学部長に就任した。  
大学院薬学研究科に生体調節科学専攻（後期3年博士課程）が設置された。
- 62年4月 大学院薬学研究科生体調節科学専攻を移設し、新たに大学院自然科学研究科（後期3年博士課程）が設置された。
- 平成 2年4月 学部長大和正利教授の任期満了により、田坂賢二教授が学部長に就任した。  
6年4月 学部長田坂賢二教授の定年退官により、篠田純男教授が学部長に就任した。  
10月 薬学基礎講座が開講された。  
7年4月 大学院薬学研究科に医療薬学専攻が設置された。  
10年4月 学部長篠田純男教授の任期満了により、原山尚教授が学部長に就任した。  
11年4月 国立学校設置法の一部改正により薬学部（総合薬学科）に改組され、薬品開発科学講座、分子細胞薬品科学講座、医療薬品科学講座及び衛生薬品科学講座が設置された。  
大学院薬学研究科が大学院自然科学研究科（博士前期課程）に統合された。  
12年4月 学部長原山尚教授の任期満了により、土屋友房教授が学部長に就任した。

- 13年4月 大学院自然科学研究科博士後期課程の改組により、生体調節科学専攻は生体機能科学専攻（薬学系3講座）となった。
- 14年4月 大学院自然科学研究科博士前期課程の改組により、2専攻（薬品科学、医療薬学専攻）5大講座となった。
- 16年4月 学部長土屋友房教授の任期満了により、木村聰城郎教授が学部長に就任した。
- 17年4月 大学院医歯学総合研究科と大学院自然科学研究科（薬学系）を統合し、大学院医歯薬学総合研究科の設置となり、部局化された。  
博士課程生体制御科学専攻機能制御学講座，脳神経制御学講座の2講座，社会環境生命科学前項国際環境科学講座に薬学系6分野が加わることとなった。  
博士後期課程創薬生命科学専攻は創薬科学講座，先端薬物療法開発学講座の2講座となった。  
博士前期課程創薬生命科学専攻は医療薬学講座，医薬品開発科学講座，分子生命薬品科学講座，衛生予防薬品科学講座の4講座となった。  
薬学部は医療薬学講座，医薬品開発科学講座，分子生命薬品科学講座，衛生予防薬品科学講座の4講座となった。
- 18年4月 学校教育法の一部改正により、薬剤師の養成を目的として臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とする修業年限6年の薬学科および研究者など多様な人材の養成を目的とする修業年限4年の創薬科学科が設置された。
- 20年4月 学部長木村聰城郎教授の任期満了により、岡本敬の介教授が学部長に就任した。
- 21年7月 合田榮一教授が学部長に就任した。
- 22年4月 薬学部本館の第1期改修工事が完成した。